

平成30年度 土木学会西部支部沖繩会 運営委員会・総会

日時：平成30年 7月12日(木)

運営委員会：16時00分～16時30分

総会：16時40分～17時10分

場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

議事次第

進行：事務局

1. 会長あいさつ

2. 審議内容

【第1号議案】

平成29年度報告（案）

- | | | |
|-------------------|-------|-----|
| ① 平成29年度 事業報告（案） | _____ | P1 |
| ② 平成29年度 収支決算書（案） | _____ | P28 |

【第2号議案】

平成30年度事業（案）

- | | | |
|--------------------|-------|-----|
| ① 平成30年度 主要事業計画（案） | _____ | P30 |
| ② 平成30年度 予算書（案） | _____ | P32 |

【第3号議案】

沖縄会会長及び会計監事の選出について（案） _____ P34

【第4号議案】

インフラメンテナンス国民会議との連携（案） _____（別紙）

3. その他

【報告】

沖縄会への寄付金の取り扱いについて _____ P38

【参考資料】

- | | | |
|--------------------------------|-------|-----|
| 参考 1 土木学会西部支部 沖縄会 規約 | _____ | P39 |
| 〃 2 沖縄会特別会員B名簿 | _____ | P43 |
| 〃 3 土木学会西部支部沖縄会役員名簿（平成30年度） | _____ | P44 |
| 〃 4 H29年度 土木学会西部支部沖縄会第3回幹事会議事録 | _____ | P45 |

平成29年度 事業報告

1. 沖縄会運営委員会 (H29. 7. 18) 那覇市おもろまち 那覇市厚生会館 参加：15名(委任状含む)
2. 沖縄会定期総会 (H29. 7. 18) 那覇市おもろまち 那覇市厚生会館 参加：49名(委任状含む)
3. 講演会の開催
講演会『社会資本の整備・管理における多様な計測・ビッグデータの活用の方向性』(H29. 8. 29)
【主催：沖縄会】
場 所：那覇市おもろまち 沖縄県立博物館・美術館
4. 技術研究発表会等
土木学会西部支部沖縄会 第7回技術研究発表会 (H30. 1. 24) 参加：52名
【主催：沖縄会】
場 所：西原町 琉球大学 研究者交流会館・50周年記念会館
5. 広報活動
 - ①「橋の日」活動 (H29. 8. 9) 金城ダム公園内・ヒジ川橋周辺 参加：93名
【主催：沖縄会、共催：琉球大学工学部環境建設工学科、琉球大学土木同窓会、内閣府沖縄総合事務局開発建設部、沖縄県土木建築部、沖縄県土木建築部南部土木事務所、琉大工学部環境建設工学科土木コース(学生)、(一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会】
 - ② 土木の日シンポジウム
『島嶼地域の観光とインフラ～観光を支える魅力的な土木・建築インフラの活用』(H29. 11. 22)
【主催：沖縄の土木技術を世界に発信する会】
場 所：テンプスホール(那覇市ぶんかテンプス館4階)
参加者：約130名
 - ③『土木・社会基盤の仕事高校生向けPRポスター No. 5～No. 10を作成し、県立高校59校及び私立高校4校へ配布。土木学会西部支部沖縄会のHPへ掲載
6. 土木技術者の確保・育成の取組
 - ・人材確保・育成WG 西原町 琉球大学 地域創生総合研究棟
(WG活動内容:PRポスター(No. 5-10)を作成し、県立・私立高校へ配布, 高校物理経論を対象とした現場見学会および懇談会の実施, 講演「物理と土木構造物との係り」開催)
8. 現場見学会
 - ・高校物理経論を対処とした現場見学会および懇談会(人材確保・育成WGと連携)
日時：2017年8月8日(火) 13:00～17:00
場所：一般国道20号線(泡瀬工区)橋梁整備現場(泡瀬人工島)
9. インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会
 - ・インフラ構造物の維持管理診断技術に関する調査研究の実施。
委 員：大学2名, 沖総局8名, NEXCO3名, しまたて1名, 民間9名, 沖縄県0名
委員会：委員会4回(10/25, 12/19, 2/16, 2/19), 幹事会2回(9/30, 11/16)

活動内容：磁気を利用した非破壊検査技術検証，加速度計によるたわみ計測，劣化橋梁視察等

10. その他

幹事会

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| ① 第一回幹事会 (H29. 6. 2) 沖縄県庁 | 参加者：13名 (委任状含む) |
| ② 第二回幹事会 (H29. 9. 1) 琉球大学工学部 | 参加者：18名 (委任状含む) |
| ③ 第三回幹事会 (H30. 3. 5) 沖縄総合事務局 | 参加者：17名 (委任状含む) |
| ④ 第一回幹事会 (H30. 6. 14) 沖縄県庁 | 参加者：19名 (委任状含む) |

平成 29 年度土木学会西部支部沖縄会 運営委員会・総会の様子

日時：運営委員会 16:00～16:30, 総会 16:40～17:10

場所：那覇市厚生会館



運営委員会



総会

土木学会西部支部沖縄会 講演会

社会資本の整備・管理における 多様な計測・ビッグデータの活用の方向性

東京都市大学 准教授

今井 龍一

2017年

8月29日 

14:00-17:00



【場所】 沖縄県立博物館・美術館(講堂)3階
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

【主催】 土木学会西部支部沖縄会

第一部

「 i-constructionとCIMの活用 」

加藤 雅彦 (株式会社 長大取締役 上席執行役員 構造事業本部長
建設コンサルタンツ協会 特別委員会 CIM対応SWG委員長)

第二部

「 社会資本の整備・管理における 多様な計測・ビッグデータの活用の方向性 」

今井龍一 (東京都市大学 准教授)

申込先
お問い合わせ

土木学会西部支部沖縄会 (沖縄しまたて協会内)

FAX: 098-874-5301 TEL: 098-879-2087

E-mail : dobokuoki-jim@shimatate.or.jp

【参加料】 無料 ※ 本講演はCPD・CPDS対象講座です

講師プロフィール

今井 龍一

出身地：大阪府

略歴：

平成12年3月 関西大学大学院工学研究科博士課程前期課程土木工学専攻修了
平成12年4月 日本工営株式会社
平成21年3月 東京大学 博士（工学）授与
平成22年8月 国土交通省国土技術政策総合研究所
（平成22年10月 東京大学空間情報科学研究センター客員研究員 現在に至る）
（平成25年4月 関西大学大学院総合情報学研究科連携大学院客員教授 ～27年3月）
平成27年4月 東京都市大学工学部都市工学科 現在に至る
（平成28年4月 関西大学社会空間情報科学研究センター客員研究員 現在に至る）



受賞：

平成27年12月 日本道路会議 優秀論文賞
平成28年4月 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞【科学技術振興部門】

活動：

安心・安全で快適な生活を送るために、国土空間をどのように計測して管理すればよいか？人や車などの都市活動（交通実態）をどのように分析して見える化すればよいか？これら資産を継続的に活用した都市経営をどのように推進すればよいか？共通認識をもって国土空間や都市活動の現状を知る、潜在する事象を発見する、将来を予測する、諸課題への対策を講ずるための技術やマネジメント手法の研究に従事。

国土空間の計測・管理手法：トータルステーション、移動体計測車両（MMS：Mobile Mapping System）、LP（Laser Profiler）やUAV（Unmanned Aerial Vehicle）などの様々な機器で計測された写真や点群データを用いた国土空間モデルの生成・活用手法の研究に従事。

都市活動の分析・見える化：携帯電話やカーナビゲーションシステムなどの媒体から24時間365日取得される人や車などの膨大な移動履歴のデータと、統計調査の各種資料とを組合せて、都市活動の現状把握、潜在する事象の発見や将来予測に係わる分析・見える化手法、分析・見える化に応じた道路ネットワークや地図基盤の研究に従事。

参加申込書

平成 年 月 日申込

フリガナ	
団体名	
住所	
電話番号	

※参加される方の氏名を下記に記入してください。（受講証明書が必要な方は○で囲んでください）

フリガナ		希望証明書
氏名		CPD CPDS
フリガナ		希望証明書
氏名		CPD CPDS
フリガナ		希望証明書
氏名		CPD CPDS

※尚、本申込みに関する個人情報は、本講演会の運営以外に使用することは一切ありません

【参加申込み先】土木学会西部支部沖縄会事務局（一般社団法人 沖縄しまたて協会企画部内）
FAX:098-874-5301 TEL:098-879-2087 E-mail:dobokuoki-jim@shimatate.or.jp

【申込締め切り】平成29年8月25日（金）※定員212名（定員に達し次第締め切ることがあります）

※CPDS 証明書発行については有料です。詳細は沖縄会 HP（<http://www.jsce-oki.tec.u-ryukyu.ac.jp/>）をご参照下さい。

土木学会西部支部沖繩会

第7回 技術研究発表会

琉球大学 研究者交流会館・50周年記念館

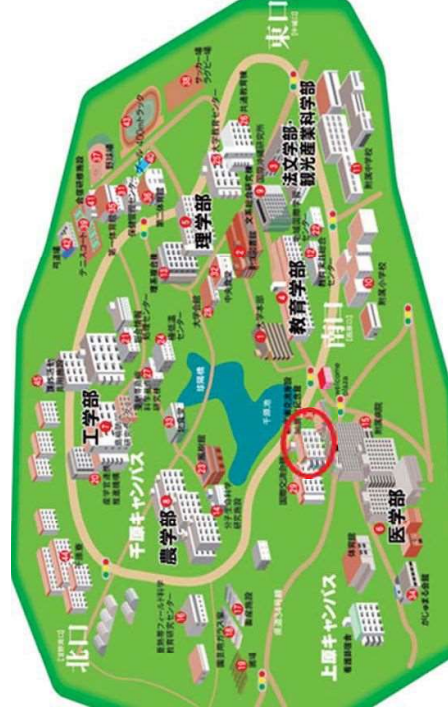
2018年1月24日(水)

発表プログラム



土木学会西部支部沖繩会

会場案内



琉球大学西原口を入り、構内の信号を左に曲がり、左手すぐ。

○ 土木学会継続教育 (CPD) 認定プログラム

発表プログラム

2018年1月24日 (水)

Time Table

Start	End	プログラム
9 : 00	9 : 30	受付・発表アーティスト・CPD登録受付 【 開会式 (Room : A) 】
9 : 30	9 : 50	開会の挨拶 ：宮城 理 (沖縄県土木建築部長) 実施要項の説明：小橋川 透 (沖縄県幹事長・沖縄県技術・建設業課長)
9 : 50	10 : 00	Break Time
10 : 00	11 : 50	Session 1 (Room : A) 9編 (点検・維持管理関連) 座長：加藤祐介 (琉球大学) Session 2 (Room : B) 9編 (整備・計画関連) 座長：神谷大介 (琉球大学)
12 : 00	13 : 00	Lunch Time
13 : 00	14 : 50	Session 3 (Room : A) 8編 (環境・観光・防災関連) 座長：望月拓郎 (沖縄総合事務局) Session 4 (Room : B) 8編 (補修・防食関連) 座長：上原盛久 (NEXCO西日本)
14 : 50	15 : 00	Break Time
15 : 00	16 : 20	Session 5 (Room : A) 6編 (コンクリート構造・材料関連) 座長：神村美州 (沖縄県測量建設コン サルタंत्रツ協会) Session 6 (Room : B) 6編 (計測・補修・補強関連) 座長：小橋川透 (沖縄県)
16 : 20	16 : 40	Break Time (優秀発表者賞 審査委員会)
16 : 40	17 : 00	優秀発表者賞の表彰：望月 拓郎 (沖縄総合事務局 企画調整官) 開会の挨拶 ：矢吹 哲哉 (沖縄会副会長・琉球大学名誉教授)

Presentation Schedule

Titles and Authors

○発表時間：9分、質疑応答：3分

○概要集：2頁～6頁（原則、偶数頁）

○注意事項

- ・発表者は、各発表セッション開始前に発表パワーポイントを会場パソコンにインストールし、動作状態を確認すること。
- ・発表者および聴講者は、土木学会西部支部沖縄会の会員登録をしてください。なお、土木学会正規会員または学生は登録の必要はありません。

Time	Room A	Room B
	<p>Session1：点検・維持管理関連 座長：加藤 祐介（琉球大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 牧港高架橋における維持管理の取組み ～連続モニタリングの導入～ 南都国道事務所 奥原 邦仁 知名 広道 新コウ脊線管更生工事と今後の草葉維持課題 沖縄県下水道事務所 崎原 達生 ドローンを用いたインフラ点検におけるひび割れ検出技術 (株)オカベメンテ 岡部 成行 鈴木 浩一、(株)ensemble 仲宗根 雄太 大成建設 鈴木 三肇 本澤 昌美 堀口 賢一、琉球大学 山田 義智 富山 潤 崎原 康平 須田 裕哉 画像解析技術を用いた種島海上橋のひび割れ定量評価 大成建設 (株) 鈴木 三肇 本澤 昌美 堀口 賢一、(株) オカベメンテ 岡部 成行、 (特許) グリーニアース 鈴木 浩一、琉球大学 山田 義智 富山 潤 崎原 康平 須田 裕哉 鋼桁橋脚における腐食弱点部の分析と腐食モニタリングに関する研究 琉球大学 村山 拓朗 下里 哲弘 田井 政行 加藤 祐介 高力ボルトの透明型防錆キャップの維持管理性評価に関する検討 琉球大学 崎山 朝陽 加藤 祐介 下里 哲弘 田井 政行、IH 岩本 達志 ひび割れ計測システムを用いたコンクリート表面ひび割れモニタリング技術の検討について 琉球大学 富山 潤 薄板モルタル供試体による沖縄県の塩害環境の定量的評価に関する基礎研究 琉球大学 八村 孝佑 富山 潤 須田 裕哉 藍野 オマール 砂川 恒雄、 アール・アンド・エー 風田 浩、沖縄建設技術センター 比嘉 正也 振動特性を用いた土木構造物の健全性評価に関する研究 琉球大学 村松 蒼 藍野 オマール 渡嘉敷 直彦 富山 潤 須田 裕哉、JPOWER 柏柳 正之 島羽瀬 孝臣 	<p>Session2：整備・計画関連 座長：神谷 大介（琉球大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 街路の駐車機能に関する都市間比較 北海道大学 葺栂 栄輔、足利市 松山 裕之、東海大学 飯田 佳孝、足利工業大学 藤島 博英、築港 龍彦 沖縄の物流活性化に向けた取組について 沖縄総合事務所 港崎 謙一、伊波 和輝 名嘉 康行 レンタカーグループによる観光交通の流動性について 沖縄総合事務所 南都国道事務所 玉城 麗直 米須 俊彦 官庁施設のエネルギー消費の運用改善に係る取組 沖縄総合事務所 宮城 俊太 新里 和良 国道330号如古交差点改良の整備効果について 南都国道事務所 崎山 祐加 伊藤 謙一郎 国営沖縄記念公園事務所 前田 眞男 上原 康広 伊江島 - 本部門を海底トンネルで繋ぐことに関する基礎的研究 琉球大学 吉水 俊哉 藍野 オマール 富山 潤 須田 裕哉、NPO法人グリーンアース 鈴木 浩一 那覇 地見島間を海底トンネルで繋ぐことに関する基礎的研究 琉球大学 吉水 俊哉 藍野 オマール 富山 潤 須田 裕哉、NPO法人グリーンアース 鈴木 浩一 Wi-Fi、パケットセンターを用いたクルーズ船利用者の沖縄観光行動把握に関する基礎分析 琉球大学 田中 謙大 神谷 大介 松本 拓朗 我部 新、東京工業大学 船田 大輔 小林 大奈 五百蔵 夏穂、 東京理科大学 朝野 秀樹、地域未来研究所 菅 芳樹、中央建設コンサルタンツ 山中 亮
10:00 ↓ 11:50		

Time	Room A	Room B
	<p>Session3：環境・観光・防災関連 座長：望月 拓郎（沖縄総合事務局）</p> <ol style="list-style-type: none"> 新沖縄県河川情報システムについて 沖縄県 土木建築部 河川課 河川班 相川 龍之輔 平良 辰弥 首里城壁の地震時安定性に関する基礎的研究 琉球大学 山城 義隆 藍野 オマール 富山 潤 須田 裕哉、地蔵工学防災研究所 渡嘉敷 直彦 水害時避難を対象とした呼びかけ避難の効果に関する分析 琉球大学 田中 正輝 神谷 大介 防災情報に着目した避難の判別要因に関する考察 琉球大学 三浦 流道 神谷 大介、長崎大学 吉田 謙 訪日外国人のレンタカー急制動箇所と区間別事故数との比較 琉球大学 内藤 郁 神谷 大介、長大 内藤 泰輔 多田 俊也、中央建設コンサルタンツ 山中 亮 海食量の模型実験における静的および動的安定性に関する研究 琉球大学 堀内 浩貴 藍野 オマール 富山 潤 須田 裕哉、沖縄防災研究センター 渡嘉敷 直彦 琉球諸島における琉球石灰岩海食量の最近の崩壊事例とその崩壊要因に関する研究 琉球大学 堀内 浩貴 藍野 オマール 富山 潤 須田 裕哉、沖縄防災研究センター 渡嘉敷 直彦 環境対策として移設したサンゴの白化について 沖縄総合事務局 石垣港湾事務所 内間 安智 知念 直 	<p>Session4：補修・防食関連 座長：上原 盛久（NEXCO西日本）</p> <ol style="list-style-type: none"> モノレール鋼製橋脚のカバープレート撤去事例について 南都国道事務所 池田 敬史 金蔵 晋樹 Al-Mg 合金溶材・塗表皮膜の防食効果調査結果 一般凝析試験体の7年経過報告一 株アラスワイヤー 田中 淳太郎 川口 保典、琉球大学 下里 哲弘 田井 政行 腐食弱点部に対する局所防食技術に関する基礎的検討 琉球大学 原田 和幸 加藤 祐介 田井 政行 下里 哲弘 有住 康則、JFE エン지니어リング(株) 熊野 祐志 腐食高力ボルト頭部の減肉特性が残存軸力評価に及ぼす影響 琉球大学 鶴田 晃 有住 康則 下里 哲弘 田井 政行 腐食に配慮した塗装剥離工法の採用 西日本高速道路総合サービス株式会社 賀数 淳人 山口 一守 腐食凹凸面に対する当部ボルト補修法のすべり耐力特性に関する実験的研究 琉球大学 坂本 健太 長坂 康史 下里 哲弘 田井 政行 有住 康則 高力ボルト摩擦接合連結板の腐食減肉形状とすべり耐力特性に関する解析的研究 琉球大学 大塚 泰樹 山下 修平 田井 政行 下里 哲弘 鋼桁ウェブ中央部の減肉に対するせん断補強力評価法の提案 琉球大学 上村 大河 下里 哲弘 田井 政行、(一社)沖縄しまたて協会 玉城 善幸
13:00 ↓ 14:50		

Time	Room A
<p style="text-align: center;">Session5：コンクリート構造・材料関連 座長：神村美州(沖縄県測量建設コンサルタツ協会)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 那覇空港滑走路増設事業における長大ボックスカラバート製作について 那覇港湾・空港整備事務所 大波 祥慎 荒木 幸宏 2. 沖縄県におけるフライアッシュコンクリートの配合及び施工指針（案）の概要報告 （一財）沖縄県建設技術センター 比嘉 正也、沖縄県土木建築部技術・建設課 砂川 勇二 3. フライアッシュセメントペーストの水和反応に及ぼす養生温度の影響に関する研究 琉球大学 外間 秀明 須田 裕哉 壺理 オメル 富山 潤 4. 湿度変化による乾燥作用を受けたセメントペーストの塩化物イオンの拡散性状と空隙構造の関係 琉球大学 池間 麻太郎 須田 裕哉 壺理 オメル 富山 潤 5. 床版取替工事におけるプレキャスト既高欄の施工について 西日本高速道路（株）九州支社沖縄高速道路事務所 改築課 塚本 太郎 飯島 カ 6. 遅延脆性ASRの膨張率と強度特性の関係性およびフライアッシュのASR抑制効果の確認試験 琉球大学 福村 英太郎 富山 潤 壺理 オメル 須田 裕哉 	<p style="text-align: center;">Room B</p> <p style="text-align: center;">Session6：計測・補修・補強関連 座長：小橋川透(沖縄県)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鋼床版バルブブリブの縦リブ交差部の疲労強度改善に関する解析的研究 琉球大学 有馬 安倫 田井 政行 下里 哲弘 有住 康則 2. TWMシステムを用いた橋梁のたわみ計測 株式会社 TTES 比山 菜穂 琉球大学 下里 哲弘 田井 政行 3. 加速度応答を用いたアンカーボルトの腐食減肉量推定の試み 琉球大学大学院 澤田 知幸 下里 哲弘 田井 政行 加藤 祐介、首都高技術（株） 日和 希介 4. ステイック・スリップ試験機を用いた地震断層のせん断挙動に関する研究 琉球大学 海野 祐樹 壺理 オメル 富山 潤 須田 裕哉 5. 音伝播特性の機械学習を利用した被突き裂検出の試み 琉球大学 櫻井 絵里加 東京工科大学 天野 直記、琉球大学 田井 政行 下里 哲弘、南華（株） 久米 仁司 6. コンクリート中に埋設されたアンカーボルトの腐食診断と防食法に関する研究 琉球大学 影山 支樹 加藤 祐介 田井 政行 下里 哲弘 有住 康則、首都高技術（株） 日和 希介
15:00	J
16:20	

『橋の日』 イベント

実施報告書

平成29年8月

主催：土木学会西部支部沖縄会

1. 「橋の日」活動の概要

8月4日は「橋の日」として、私たちの生活と文化に密接なかかわりを持つ橋に感謝を込めて、橋の清掃活動を行っている。本活動は現在、全国 47 都道府県すべてに広がり、沖縄県では平成 23 年度以降連続開催し今年7回目を実施するものである。

2. 「橋の日」活動の目的

- ・橋に感謝し、橋の歴史や構造を学ぶ。
- ・橋に感謝し、橋とのふれあいの日にする。
- ・橋に感謝し、橋を大事にする心を育む。

3. 主催等

主 催：土木学会西部支部沖縄会

4. 共催（参加協力）

- ：琉球大学工学部環境建設工学科土木コース（学生）
- ：琉球大学土木同窓会
- ：内閣府沖縄総合事務局開発建設部
- ：沖縄県土木建築部
- ：沖縄県土木建築部南部土木事務所
- ：（一社）沖縄県測量建設コンサルタンツ協会（測建協）

5. 活動内容

日付：平成 29 年 8 月 9 日（水）

時間：午前10時～12時まで

場所：金城ダム公園内・ヒジ川橋周辺（那覇市繁多川）

集合：金城ダム管理所

内 容：・ヒジ川橋及び周辺の清掃

- ・学生による説明
- ・測建協の出前講座
- ・橋のふしぎ探し

6. 参加者

- ・那覇市 城西学童クラブ
※学童の兄弟友人、保護者の参加を案内
- ・琉球大学
- ・沖縄総合事務局開発建設部
- ・沖縄県土木建築部
- ・沖縄県土木建築部南部土木事務所
- ・琉球大学土木工学科・環境建設工学科土木同窓会
- ・（一社）沖縄県測量建設コンサルタンツ協会
- ・土木学会西部支部沖縄会 会員

7. 当日のスケジュール

時刻	内容	留意点
9:45	金城ダム管理所	位置図参照
10:00	開会式	司会：幹事長
	開会あいさつ	
10:05	ヒシ川橋 概要説明 質疑応答	琉球大学学生
10:30	橋梁に関する講座	測建協
10:55	作業説明	事務局 作業範囲、注意点、「橋のふしぎ探し」の説明
11:00	「橋のふしぎ探し」及び清掃 公園内を散策しながらごみ拾い ヒシ川橋周辺でふしぎ探し	ごみは、ダム管理所前に集積
11:20	作業終了	
11:25	「橋のふしぎ探し」発表及び解説	
11:45	児童クラブ 児童代表挨拶	感想など
11:55	閉会あいさつ	琉球大学土木同窓会長
12:00	昼食	解散後、各自昼食 公園内、管理所内は使用可能

※挨拶、説明等の場所は金城ダム管理所とする。

8. 実施にあたっての役割分担等

(1) 費用負担

- 土木学会西部支部沖縄会：昼食代、軍手代（80組）、学童クラブご褒美代、
保険（琉大学生 30名、学童クラブ 40名）+ α
- 琉球大学土木同窓会：Tシャツ代

(2) 役割分担

- 実施計画書作成：技術・建設業課
- 記者発表：技術・建設業課
- 昼食手配、保険の手続き：技術・建設業課
- 飲み物、学童クラブご褒美：技術・建設業課
- Tシャツ準備：琉球大学土木コース学生
- ゴミ袋、軍手、マイク、カメラ：技術・建設業課
- 当日の司会：幹事長
- 当日の監督係：沖縄総合事務局、琉大同窓会
- 管理者への許可申請：技術・建設業課
- ゴミ処分：南部土木事務所（金城ダム管理所）

<備考>

第1回（H23.8.8）国道 58 号 明治橋

第2回（H24.8.3）国道 329 号 とよみ大橋

第3回（H25.8.2）国道 58 号 新牧港橋

第4回（H26.8.6）県道那覇内環状線 那覇大橋

第5回（H27.8.12）県道 11 号線 真玉橋

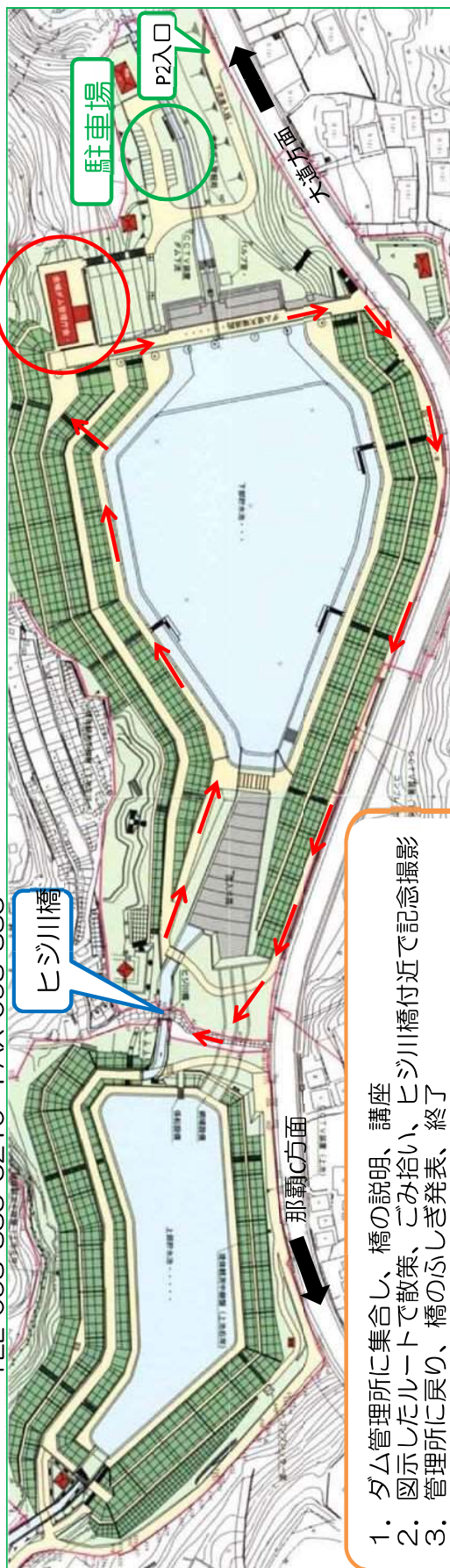
第6回（H28.8.9）与根高架橋

橋の日イベント（金城ダム公園内）集合場所

集合場所（金城ダム管理所1階）
説明場所

金城ダム管理所：〒902-0071 那覇市繁多川4丁目553-
TEL 098-885-5210 FAX 098-885-

→ : 清掃ルート



1. ダム管理所に集合し、橋の説明、講座
2. 明示したルートで散策、ごみ拾い、ヒジ川橋付近で記念撮影
3. 管理所に戻り、橋のふしぎ発表、終了
4. 解散後、昼食は公園内及び管理所内で自由に

9. 作業風景

(1) 開会あいさつ、ならびにヒジ川橋についての紹介。

- 司会を幹事長が行い、開会のあいさつとして矢吹副会長による「橋の日」活動の目的および概要説明が行われました。
- 「橋の日」の活動目的でもある『橋に感謝し、橋の歴史や構造を学ぶ』ため、琉球大学工学部環境建設工学科土木コースの学生による橋の説明、沖縄県測量建設コンサルタント協会の出前講座が行なわれました。



(2) 作業風景



今回はごみ拾いや草抜きなどの掃除をメインに行いました。当日は天候もよく、たくさんの方に参加いただけたため、短時間で効率よく作業を行えました。

(3) 記念撮影



1. 平成 29 年度 活動報告

(1) 第 22 回シンポジウム開催

「沖縄の土木技術を世界に発信する会」

第 22 回シンポジウム

島嶼地域の観光とインフラ

～観光を支える魅力的な土木・建築インフラの活用～



日 時 : 平成 29 年 11 月 22 日 (水) 13:00～17:00

会 場 : テンブスホール (那覇市ぶんかテンブス館 4 階) (参加人数 130 名)

開会挨拶 : 矢吹 哲哉 (沖縄の土木技術を世界に発信する会 委員長)

来賓挨拶 : 菊地 春海 (内閣府 沖縄総合事務局 次長)

○基調講演 :

「観光資源としてみた土木・建築インフラのあり方」

～魅力的な土木・建築遺産から考える～

講師 : 北河大次郎 (国立文化財機構 東京文化財研究所近代文化遺産
研究所、東京大学社会基盤学専攻非常勤講師)



委員長挨拶

○テーマ講演会 : 沖縄におけるインフラツーリズムのあり方

司会・総括 : 大城 郁寛 (琉球大学法文学部 教授)

講演-1 : 安里 進 (前沖縄県立博物館・美術館 館長)

講演-2 : 宮城 邦治 (沖縄国際大学名誉教授)

講演-3 : 新垣 哲 (沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所長)

講演-4 : 上原 国定 (沖縄県土木建築部 土木整備統括監)



司会 : 崎山一葉



(2) 講演録『津梁』の発行

講演内容を取りまとめた冊子『津梁』の発行を行った、また、当日アンケートに答えていただいた方で、希望者（47名）に『津梁』の贈呈を行った。

- ・発行部数 : 600部
- ・配布箇所 : 幹事団体【6】、
県内公共機関（沖縄総合事務局【25】、沖縄県【22】、市町村【50】）
マスコミ【7】、大学・専修学校【7】、図書館【50】、その他
- ・配布総数 : 470部

土木学会西部支部沖縄会幹事会人材確保・育成 WG H29 年度活動報告

WG 名	人材確保・育成 WG	WG 長	神谷 大介	幹事長	宮里 宏和
活動期間	平成 29 年 4 月 ～ 平成 30 年 3 月				
活動目的	沖縄県内における土木技術者の人材不足に鑑み、短期的・中長期的な人材確保・育成が必要である。このため、短期的には人材確保のための活動、中長期的には土木に興味・関心を持つ児童・生徒を増加させるための取り組みを行い、上記課題の解決に資することを目的とする。				
メンバー構成	琉球大学:神谷准教授(WG 長)、下里准教授、富山准教授 (一財)沖縄県建設技術センター:試験研究部長(幹事長) 沖縄総合事務局:技術管理官、技術管理課長 沖縄県:技術・建設業課 建設業指導契約監 (一社)沖縄県建設業協会:理事 (一社)沖縄県測量設計コンサルタンツ協会:専務理事 (一社)沖縄しまたて協会:技術環境研究所技術環境部長 NEXCO 西日本(株):九州支社沖縄高速道路事務所統括課長 (株)沖縄建設新聞:参与				
活動報告	WG 各機関の取り組み状況について 1. 高校生向け土木技術者 PR 用ポスター No.5～No.10 作成し、県立高校 59 校及び私立高校 4 校へ配布。沖縄会 HP に掲載。 2. 高校物理教諭を対象とした現場見学会および懇談会の実施。 日時:2017 年 8 月 8 日(火)13:00～17:00 場所:一般県道 20 号(泡瀬工区)橋梁整備現場(泡瀬人工島) 3. 講演「物理と土木構造物との係り」 講師:富山 潤(琉球大学工学部 准教授) 日時:2017 年 12 月 2 日(土)9:30～11:00 場所:宜野湾市カルチャーリゾートフェストーネ 参加人数:30 名				
今後の活動計画と目標 (平成 30 年度)	平成 30 年度より 3 年間の WG 活動を申請。 昨年度と同様に高校生向けポスターの作成と配布、高校教諭との連携を行う。 また、土木学会 教育企画・人材育成委員会とも連携し、目的に対して有効な取り組みに関する情報共有と活動実施を行う。				



● 暮らしをつくる建設業の仕事紹介

- ・道路、トンネル、ダム、橋、港湾など社会基盤(インフラ)をつくる仕事
- ・地域の安全・安心を守る産業
- ・災害発生時の迅速な復旧処理対応



(株)大城組
仕事紹介

経営理念

鏡
表
書
力努実誠

大城組は、大正9年の創業から今年で97年目を迎えます。土木部は、「自然の中に生きる」をテーマに、自然との調和を図るため周辺環境に配慮し“形”あるものを作ってきました。私たちの生活には欠かせない、インフラである港湾・空港・橋梁(橋脚)・トンネル、ライフラインの上下水道(貯水タンク・浄化施設)など多種多様な公共施設があります。これらの建造物を建設することにより、快適な人流・物流の移動等が可能となり、社会経済活動に大きく貢献するものであります。

特に、土木部は工事を受注すると、土木技術者が、現地調査、測量、施工計画、施工管理(工程・出来形・品質)を行い、「安全・安心・高品質」の建造物を造り出すため全力を挙げて取り組みます。そして、発注者、地域社会へ提供してまいります。

大城組は、その“形”が自然に溶け込み、活用され、ながく共生する姿であってほしいと願っています。



福地ダム



津嘉山トンネル



南風原高架橋



石垣港

Message



土木の醍醐味はダムやトンネルや橋梁等のスケールの大きなモノづくりに携われることです。完成したときの達成感や喜びをみんなと分かち合う瞬間、この仕事にやりがいを感じます。

株式会社 大城組 土木部
玉城英徳(浦添高校/琉球大学 環境建設工学科 卒)



先輩や職人さんと一緒に作り上げたモノがみなさんの生活の一部として何十年も使ってもらえると思うと、土木の仕事をしていて誇らしく一番嬉しい時です。

株式会社 大城組 土木部
宮里直嗣(興南高校卒/琉球大学 環境建設工学科 卒)

浦添南第一地区前田線トンネル工事
前田小学校のみなさんが見学に来ました。





● 都市モノレール建設事務所の仕事紹介

- ・ 沖縄県での取組事例
- ・ 仕事の将来性など

仕事の紹介

沖縄県土木建築部 都市計画課
沖縄都市モノレール室

沖縄都市モノレール(ゆいレール)は、那覇空港から首里駅までの区間を約27分で結び、定時・定速で運行できる乗り物として、皆さんにご利用いただいています。

沖縄県都市計画・モノレール課 都市モノレール室では主に、営業区間の維持管理に関する仕事、モノレールの利用促進に関する仕事、首里駅からてだこ浦西駅までの延長区間の整備に関する仕事を行っています。

利用推進に関する仕事は、利用客を増やすための取り組みを考え実施する仕事で、那覇市・浦添市・沖縄都市モノレール(株)と連携し、様々な人とコミュニケーションを取りながら進めています。

延長整備に関する仕事は、モノレールが走行するための道路拡幅工事、インフラ工事(支柱・桁・駅舎骨格等)、インフラ外工事(車両、変電所、電車線路、信号通信、駅舎設備等)といった様々な工事を完成し、多くの皆さんにご利用いただくことを目的としています。

都市モノレール室では、延長整備に必要な予算や進捗状況のチェックをする仕事を行っており、延長整備に係る工事発注・監督は、都市モノレール建設事務所で実施し、設計コンサルタントや工事業者、関係機関と調整を行いながら工事を進めています。



★てだこ浦西駅建設イメージ



★支柱建設が進む延長区間(那覇市道石嶺線)

沖縄県での取り組み事例

	既存区間 (那覇空港駅～首里駅)	延長区間 (首里駅～てだこ浦西駅)
事業費	1,100億円	480億円
延長	13.1km(建設) 12.9km(営業)	4.1km
支柱	584基	178基
桁本数	1,042本	352本
駅数	15駅	4駅

将来性

県の様々な土木行政に関わる事ができる。



Message

土木構造物を作る公共工事は、設計や施工、その他様々な職種に携わる人と連携しながら進められていきます。自分の関わった仕事が、直接的に社会貢献できるやりがいのある仕事です。将来、一緒に働けることを楽しみにしています。

笹原 謙 徳
出水高校(県外)/琉球大学卒





緊急災害対策派遣隊
TEC-FORCE

仕事の紹介

沖縄総合事務局 開発建設部 防災課

TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)は、地震、津波、台風などの自然災害が起こった時に、いち早く災害現場に出動し、情報収集・連絡、調査、復旧を支援します。沖縄総合事務局や国土交通省の地方整備局等の中で、災害対応の専門技術を有する職員を主体に構成されています。平成20年度の発足以来、東日本大震災をはじめ60以上の災害に対し、のべ4万人/日以上が派遣されました。

緊急災害対策派遣隊

TEC-FORCE
Technical Emergency Control FORCE

★情報収集・連絡★
(リエゾン)

リエゾンとは、TEC-FORCEの一部で主に連絡調整の役割を担っています。リエゾンを通じ、被災自治体と沖縄総合事務局が円滑に情報交換することができます。

★調査★

河川や道路、砂防などの被害状況を、直接現地に入り調査します。また、現地に立ち入ることが難しい場合は防災ヘリコプターを活用し、上空から調査します。



防災ヘリコプター



土砂災害危険箇所調査



建物の被害調査



現地調査の様子(熊本県)



打合せの様子(九州地方整備局)

Message

昨年の4月20日から5月8日にかけて、熊本地震における災害の迅速な復旧を支援するため、熊本県内における土砂災害危険箇所や橋梁等の被災状況調査を行いました。被災地で何をしなければならないかを、実体験を通じて経験できました。今回の経験は沖縄での防災対応にも活かしてまいります。



沖縄総合事務局 被災状況調査 砂防調査班

★復旧★

排水ポンプ車や応急組立橋などの災害対策機械を使い、応急復旧活動を行います。



応急組立橋の設置状況



排水ポンプ車による
応急復旧の様子



秀 金秀鉄工株式会社

社訓 誠実 奉仕 努力 実力

金秀グループ創業70周年の感謝を心に刻み...

仕事紹介 地元企業である金秀グループは、2017年で創業70周年を迎えました。

「誠実・努力・奉仕」を社訓とし、県民の生活に貢献し続けています。その中の一つである金秀鉄工(株)は、県内最高等級のHグレード（鉄骨製造工場の等級）認定の自社工場を所有しており、主に鋼構造物の設計・製作・施工を業務とし、ものづくりから現場施工まで一連の作業を担います。

一つ一つの構造物は、全てオーダーメイドである為、計画から完成するまでかなりの工程と時間と労力がかかります。その中で、技術者の仕事内容は主に構造物を対象とした図面の照査、構造計算、製作時・架設時の計画や作図といった前段取りを行います。大学で学んだ力学計算や実習が活かされ、最前線で活躍しております。

また、土木は一人では決して出来ない仕事のため、多くの技術者が必要とされており、高校や大学の先輩も多い業界です。ひとりひとりの仕事が必要とされ、みんなで社会基盤を作って地域を発展させることが私たちの仕事です。

図面照査



図面作図



施工計画



石嶺駅完成予想図



Message

この業界は、地図に残る仕事であり子供たちにも自慢できるような仕事だと思っています。技術力を身につけ、ものづくりのノウハウを学び、それを活かし将来は沖縄で歴史に残る構造物をつくるのが夢です。現在、モノレールの石嶺駅建設工事に携わり、誇りを持って仕事に取り組んでおります。沖縄と関わりながら人とのつながりを深め、更なる発展のため一緒に貢献していきましょう。

金秀鉄工(株)
島袋 秀也(沖縄尚学高校/琉球大学土木コースH23卒)





- 仕事の紹介
- 沖縄県での取り組み事例
- Message

仕事の紹介

下水道施設は、県民の清潔で快適な生活環境を守り、川や海の自然環境を保全する重要な社会資本です。

沖縄県下水道課では、20年後の将来を見据えた下水道計画の立案や、施設建設や維持管理等を適切執行するため、年間約150億円以上の予算を取り扱っています。

また、各市町村の下水道事業に対して、助言や相談及び勉強会の実施なども行っています。

その他にも、下水処理水の再生水利用や処理過程で発生する消化ガスの有効利用等、循環型社会の構築に向けた取り組みも行っています。

災害発生時においても、県民が安心してトイレ等を利用できるように、県内市町村と連携して業務継続のための計画の立案も進めています。

—このように下水道課の業務は、私たちの生活に必要な不可欠な下水道システムの根幹に関わるものであり、重要でやりがいのある仕事です。



沖縄県での取り組み事例

再生水事業について、トイレ洗浄用水や散水用水などの雑用水だけでなく、ゆいレール牧志駅付近のさいおんスクエア広場で修景を目的に再生水が使用されています。

巨大シーサーのモニュメントから再生水が流れ出て、潤いある水辺空間を創出しています。

水不足による断水の際にも、安定的に供給できる水資源として、今後を期待される取り組みとなっています。



Message



- 県民が快適な生活を送る上で、下水道施設が必要なのです。
- 環境保全を意識し、公共施設を整備しましょう！
- 若い皆さんに期待し、引き継いでいきたいと思えます！！ 大城 勉
普天間高校/琉球大学卒

1人1人の仕事の社会に対する影響が大きいく、沖縄県の未来を担う価値ある仕事だと思います。

☆ 仕事への想い ☆



仕事の紹介

内閣府沖縄総合事務局 石垣港湾事務所

八重山諸島は複数の離島で構成されており、住民の生活や地域の観光は海上交通に依存しています。①竹富南航路が位置する石西礁湖はサンゴ礁海域であり全体的に水深が浅く、安全に船舶が航行する環境が確保されていません。本事務所では航路のなかで浅い場所を掘ることにより、安全に船舶が航行できるよう航路浚渫工事を行っております。工事を行う前には、サンゴへの影響を低減するため、工事箇所 distributes ②サンゴを移設(固着性サンゴ、枝状サンゴ)しています。サンゴにストレスを与えないよう十分配慮した移設を行ったことで、③サンゴは順調に成長し、④サンゴの産卵もみられ、⑤生物多様性に富んだ生態系の回復に役立っています。

①竹富南航路



②移設サンゴ



枝状サンゴ



③サンゴの順調な成長



④サンゴの産卵の様子



⑤移設サンゴと魚の群れ

Message

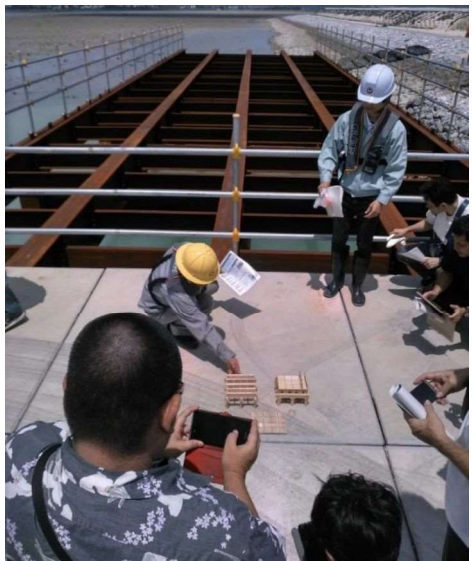


土木の仕事は、地域の生活基盤として形となり、地域の経済を支え、人々の暮らしを豊かにするやりがいのある仕事だと感じています。また災害から人命・財産を守る仕事であり、日々責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。

生活基盤をつくるだけでなく、沖縄の美しいサンゴなどの環境を守り、後世に引き継ぐことも重要な役割であると考えています。沖縄の振興と発展のために、一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

富田 和之
球陽高校 / 愛媛大学卒

現場見学会の様子



インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会活動状況

・ 磁気を利用した非破壊検査技術検証



・ 加速度計によるたわみ計測



・ 劣化橋梁視察



・ 委員会



土木学会西部支部 沖縄会 平成29年度収支決算書(案)

(単位:円)


収支科目	平成29年度 予算額 (a)	平成29年度 決算額 (b)	差異 (a)-(b)	備考
I 事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
(1)会費収入	(310,000)	(320,000)	△ 10,000	
①法人	310,000	320,000	△ 10,000	5,000円*61社 + 過年度3社
(2)ランチ支援金	(120,000)	(120,000)	0	
	120,000	120,000	0	西部支部交付(世界に発信する会へ)
(3)事業収入	(70,000)	(26,000)	44,000	
①行事収入	70,000	26,000	44,000	
①-1総会会費収入	0	0	0	
①-2定例会費収入	0	0	0	
①-3講演講習会収入	70,000	26,000	44,000	講習会等(2回) CPDS参加費
①-4研究調査発表会収入	0	0	0	
(4)雑収入	0	(3)	△ 3	
①受取利息・配当金	0	3	△ 3	銀行利子
(5)繰入金収入	0	0	0	
①支所繰入金収入	0	0	0	
事業活動収入(A)	(500,000)	(466,003)	33,997	
2.事業活動支出				
(1)事業費支出	(698,760)	(536,492)	162,268	
①講習会費	200,000	168,756	31,244	講演会(1回)
②研究発表会費	58,000	58,585	△ 585	印刷、記念品等
③広報費	225,000	202,023	22,977	橋の日・土木の日、ポスター郵送
④現場見学会費	140,760	78,624	62,136	バス借上
⑤その他・総会	75,000	28,504	46,496	会場借上、配布資料印刷
⑥拠出金	0	0	0	
			0	
(2)管理費	(35,000)	(23,588)	11,412	HP管理費等、残高証明書等
			0	
(3)繰越金支出	0	0	0	
①特別会計繰越支出	0	0	0	
事業活動支出計(B)	(733,760)	(560,080)	173,680	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 233,760	△ 94,077	△ 139,683	
II.投資活動収支の部				
1.投資活動収入				
(1)特定貯金取崩収入	0	0	0	
①支部運営積立貯金取崩収入	0	0	0	
投資活動収入計(D)	0	0	0	
2.投資活動支出				
(1)固定資産取得支出	0	0	0	
(2)特定貯金支出	0	0	0	
①支部運営積立貯金支出	0	0	0	
投資活動支出計(E)	0	0	0	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	0	0	0	
III.予備費支出(G)				
			0	
当期収支差額(H)=(C)+(F)+(G)	△ 233,760	△ 94,077	△ 139,683	
前期繰越収支差額(I)	490,901	490,901	0	
次期繰越収支差額(H)+(I)	257,141	396,824	△ 139,683	

平成29年度 監査報告書


平成29年度(一社)土木学会西部支部沖縄会の収入・支出及び財産につき関係諸帳簿及び、証拠書類を監査の結果、適正かつ正確に経理されていることを確認する。

平成30年 6月 11日

監査役 沖縄県土木建築部 土木整備統括監

松島良成 

監査役 (一社) 沖縄県建設業協会 会長

下地米蔵 

平成30年度 主要事業計画（案）

1. 土木学会西部支部沖縄会総会

(1) 企画内容等

年1回総会を開催する。

(2) 開催日時

平成30年7月12日(木)

2. 講演会の開催

(1) テーマ：土木 to the Future ～土木技術者の使命～

(2) 内 容：

① 特別講演 片山英資（一般社団法人ツタワールドボク 代表理事）

② 検討中(県内講師予定)

開催時期：平成30年9月12日（水） 14:00～17:00(予定)

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

3. 講習会等の開催

(1) 企画内容等

講習会（CPDS／CPD）等を開催する。

テーマ：検討中

(2) 開催時期：調整中

4. 技術研究発表会等

(1) 企画内容等

沖縄会、沖縄総合事務局、沖縄県合同技術研究発表会を開催し、大学、主要発注機関、コンサルタント等から発表論文を募集し、より活性化を図る。年に1回開催する。

(2) 開催日時

平成31年1月(予定)

(3) 開催場所

西原町 琉球大学

5. 広報活動

(1) 土木の日シンポジウム

・土木の日（11月18日）にあわせ、土木工学に係るシンポジウムを開催。

・開催日時：平成30年11月21日（予定）

・開催場所：那覇市 パレット市民劇場

(2) 橋の日イベント

・橋の日（8月4日）にあわせ、県内橋梁の歴史調査、清掃などを行う。

・開催日時：平成30年8月3日（金）

・開催場所：国道331号「糸満高架橋」

- (3) 土木・社会基盤の仕事高校生向けPRポスター作成および配布、沖縄会HPへ掲載。
- (4) その他

6. ホームページの管理・運営

各種事業の取組に合わせて適宜情報を提供し、広報等に活用。

7. 現場見学会等

(1) 企画内容等

学校教員を対象とした講演会・現場見学会・意見交換会(人材確保・育成WGとの連携事業)。

(2) 開催時期

平成30年7月～9月

(3) 開催場所：検討中

8. 土木技術者の確保・育成について

人材確保・育成WGにおいて、土木技術者の確保・育成のための効果的な活動内容について、教育機関等と引き続き協議を行い実施方法について検討を進める。

9. インフラの劣化予測と残存性能の診断に関する小委員会について

小委員会において、劣化したインフラ構造物を対象に、各種非破壊検査技術の性能検証と、技術者の技量向上に資する調査研究を引き続き行う。

土木学会西部支部沖縄会人材確保・育成 WG

WG 名	人材確保・育成 WG	WG 長	神谷 大介	幹事長	宮里 宏和
活動予定 期間	平成 30 年 4 月 ～ 平成 33 年 6 月				
活動目的	<p>沖縄県内における土木技術者の人材不足に鑑み、短期的・中長期的な人材育成・確保が必要である。このため、短期的には人材確保のための活動、中長期的には土木に興味・関心を持つ児童・生徒を増加させるための取り組みを行い、上記課題の解決に資することを目的とする。さらに、土木学会教育企画・人材育成委員会とも連携し、全国的な取り組み動向についても調査する。</p>				
メンバー構成	<p>琉球大学:神谷准教授(WG 長)、下里准教授、富山准教授 (一財)沖縄県建設技術センター:試験研究部長(幹事長) 沖縄総合事務局:技術管理官、技術管理課長 沖縄県:技術・建設業課 建設業指導契約監 (一社)沖縄県建設業協会:理事 (一社)沖縄県測量設計コンサルタンツ協会:専務理事 (一社)沖縄しまたて協会:技術環境研究所技術環境部長 (株)沖縄建設新聞:参与</p>				
想定される 活動内容	<p>① 高等学校生徒向け広報用ポスター配布 ② 学校教員を対象とした講演会・現場見学会・意見交換会 ③ 県内工業高校土木関係コース生徒向けの活動 ④ 琉球大学工学部社会基盤デザインコース学生向けの活動(講演会・現場見学会等) ⑤ 県内小・中学生向けの活動(キャリア教育との連携、生活・総合教育との連携等) ⑥ その他、人材確保・育成に関わる活動</p>				

土木学会西部支部 沖縄会 平成30年度予算書(案)

(単位:円)

収支科目	平成30年度 予算額 (a)	平成29年度 予算額 (当初) (b)	差異 (a)-(b)	備考
I 事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
(1)会費収入	(320,000)	(310,000)	10,000	
①法人	320,000	310,000	10,000	5,000円*64社
(2)ランチ支援金	(120,000)	(120,000)	0	支部交付金(発信する会へ)
	120,000	120,000	0	
(3)事業収入	(70,000)	(70,000)	0	
①行事収入	70,000	70,000	0	
①-1総会会費収入	0	0	0	
①-2定例会会費収入	0	0	0	
①-3講演講習会収入	70,000	70,000	0	
①-4研究調査発表会収入	0	0	0	
(4)雑収入	0	0	0	
①受取利息・配当金	0	0	0	
(5)繰入金収入	0	0	0	
①支所繰入金収入	0	0	0	
事業活動収入(A)	(510,000)	(500,000)	10,000	
2.事業活動支出				
(1)事業費支出	(648,000)	(698,760)	△ 50,760	
①講習会費	200,000	200,000	0	講演会、講習会、会場借上げ費等
②研究発表会費	58,000	58,000	0	会場借上げ費、記念品等
③広報費	225,000	225,000	0	橋の日・土木の日、ポスター郵送料
④現場見学会費	90,000	140,760	△ 50,760	バス借上げ費等 (H29はH28未払い分を計上)
⑤その他、総会	75,000	75,000	0	会場借上げ費等
⑥拠出金	0	0	0	
(2)管理費	(35,000)	(35,000)	0	HP管理費等、残高証明書等
(3)繰越金支出	0	0	0	
①特別会計繰越支出	0	0	0	
事業活動支出計(B)	(683,000)	(733,760)	△ 50,760	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 173,000	△ 233,760	60,760	
II.投資活動収支の部				
1.投資活動収入				
(1)特定貯金取崩収入	0	0	0	
①支部運営積立貯金取崩収入	0	0	0	
投資活動収入計(D)	0	0	0	
2.投資活動支出				
(1)固定資産取得支出	0	0	0	
(2)特定貯金支出	0	0	0	
①支部運営積立貯金支出	0	0	0	
投資活動支出計(E)	0	0	0	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	0	0	0	
III.予備費支出(G)				
当期収支差額(H)=(C)+(F)+(G)	△ 173,000	△ 233,760	60,760	
前期繰越収支差額(I)	396,824	490,901	△ 94,077	
次期繰越収支差額(H)+(I)	223,824	257,141	△ 33,317	

沖縄会会長及び会計監事の選出について（案）

○沖縄会規約第12条によると役員の任期は2カ年と規定されていることから、規約第10条、第12条及び沖縄会会長選出申し合わせ事項に基づき、新役員の選任を提案する。

※現体制：【参考資料－3】

土木学会西部支部 沖縄会 規約(抜粋)

(役員の選任)

第10条 役員の選任方法は、次のとおりとする。

1. 会長および会計監事は本会に所属する会員の中から幹事会及び運営委員会の審議を経て総会で選任する。
2. 副会長は会長が委嘱する。
3. 運営委員、幹事長及び副幹事長並びに幹事は会長が委嘱する。

(役員の職務)

第11条 役員の職務は次のとおりとする。

1. 会長は、会を代表し、総会及び運営委員会の議長となる。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。
3. 会計監事は、本会の会計監査を行い、総会に報告する。
4. 運営委員は、本会に関する重要な事項について、会長の諮問に応ずる。
5. 幹事長は、会長及び副会長を補佐し、会務を処理する。
6. 副幹事長は、幹事長を補佐し、必要に応じて幹事長の職務を代行する。
7. 幹事は、幹事長及び副幹事長とともに幹事会を構成し、幹事長及び副幹事長を補佐して会務を執行する。

(役員の任期)

第12条 役員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

- 2) 任期中の異動等により任務の遂行が不可能となった場合、原則として前任者の所属する機関からの推薦を受けるものとする。この場合、任期は前任者の残存期間とする。

付則)

1. この規約は平成23年9月20日より施行する。
2. 初年度は会長及び会計監事を総会で選任する。
3. 初年度は特別会員A、特別会員Bを総会で承認する
4. この規約は平成24年7月4日より施行する。
5. 平成29年7月18日一部改定

沖縄会会長選出に係る申し合わせ事項(案)

第1条 会長は、原則として下記に掲げる機関から輪番で選出するものとする。

- ・ 琉球大学 工学部
- ・ 内閣府 沖縄総合事務局
- ・ 沖縄県

第2条 会計監事は、原則として運営委員機関から選出するものとする。(現行)

第2条 会計監事は、原則として運営委員機関から2名選出するものとし、1名は、会長選出機関、もう1名は(一社)沖縄県測量コンサルタント協会、(一財)沖縄県建設技術センター、(一社)沖縄建設業協会から輪番制で選出するものとする。(改定案)

第3条 副会長は、第1条に掲げる機関のうち、会長が選出されていない機関から、会長が委嘱することを基本とする。

第4条 幹事長は会長を選出している機関から、会長が委嘱することを基本とする。

2) 幹事長は副幹事長を兼ねることが出来る。

第5条 副幹事長は第1条に掲げる機関から1名ずつ選出する。

2) 次期会長選出機関は、総会・運営委員会・幹事会等に係る運営事務を担う。

付則) 1. 本申し合わせ事項は平成25年6月25日より施行する。

2. 平成29年7月18日一部改定

3. 平成30年7月12日一部改定

沖繩会役員輪番表(案)

	平成23年度～平成25年度	平成26年度～平成27年度	平成28年度～平成29年度	平成30年度～平成31年度
運営委員会				
会長	琉球大学 名誉教授 矢吹哲哉	内閣府 沖縄総合事務局 次長 申合せ事項 第1条より	沖縄県 土木建築部 部長 申合せ事項 第1条より	琉球大学 教授 申合せ事項 第1条より
副会長	内閣府 沖縄総合事務局 次長 尾澤 卓思	沖縄県 土木建築部 部長 申合せ事項 第3条より	琉球大学 教授 申合せ事項 第3条より	内閣府 沖縄総合事務局 次長 申合せ事項 第3条より
副会長	沖縄県 土木建築部 部長 當銘 健一郎	琉球大学 教授 申合せ事項 第3条より	内閣府 沖縄総合事務局 次長 申合せ事項 第3条より	沖縄県 土木建築部 部長 申合せ事項 第3条より
会計監事	琉球大学 工学部 教授 (会長選出機関) 有住 康則	沖縄県総合事務局開発建設部 企画調整官(会長選出機関) 高井 嘉親	沖縄県 土木整備統括監(会長選出機関) 上原 国定	琉球大学(会長選出機関) 申合せ事項 第2条より
会計監事	沖縄県測量建設コンサルタント協会 (民間) 砂川 徹男	(一財)沖縄県建設技術センター理事長(民間) 伊禮 年男	(一社)沖縄県建設業協会 会長(民間) 下地 米蔵	(一社)沖縄県測量建設コンサルタント協会 (民間) 申合せ事項 第2条より
幹事会				
幹事長	琉球大学 工学部 准教授 下里 哲弘	沖縄総合事務局開発建設部 技術管理課長 申合せ事項 第4条より	沖縄県 土木建築部 技術・建設課長 申合せ事項 第4条より	琉球大学 申合せ事項 第4条より
副幹事長	沖縄総合事務局 開発建設部 技術管理課 新垣 哲	沖縄県 土木建築部 技術・建設課長 申合せ事項 第5条1より	沖縄総合事務局 沖繩県, 琉球大学 申合せ事項 第5条1より	沖縄総合事務局, 沖繩県, 琉球大学 申合せ事項 第5条1より
事務局	内閣府 沖縄総合事務局 技術管理課	沖縄県 土木建築部 技術・建設課 申合せ事項 第5条2より	琉球大学 申合せ事項 第5条2より	内閣府, 沖縄総合事務局 技術管理課 申合せ事項 第5条2より

H30年度 土木学会西部支部 沖縄会 役員名簿 (H30/7/1)

※赤字が新役員案 箇所

○ 運営委員会

役職等	氏名	所 属
会 長	矢吹 哲哉	琉球大学名誉教授
副 会 長	菊地 春海	内閣府 沖縄総合事務局 次長
副 会 長	上原 国定	沖縄県 土木建築部 部長
会計監事	有住 康則	琉球大学 工学部 教授
会計監事	池村 弘	(一社) 沖縄県測量建設コンサルタンツ協会 会長
運営委員	松島 良成	沖縄県 土木建築部 土木整備統括監
〃	中島 靖	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 部長
〃	望月 拓郎	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官
〃	井上 主勇	防衛省 沖縄防衛局 調達部長
〃	中野 拓治	琉球大学 農学部 教授
〃	石垣 弘規	(一社) 沖縄しまたて協会 専務理事
〃	宮城 理	(一財) 沖縄県建設技術センター 理事長
〃	下地 米蔵	(一社) 沖縄県建設業協会 会長
〃	小早川 弘	(一財) 港湾空港総合技術センター 沖縄支部長
〃	座波 博史	沖縄県港湾空港建設協会 会長
〃	与那嶺 恵伸	(一社) 日本道路建設業協会 沖縄支部長
〃	仲宗根 斉	沖縄電力(株) 送配電本部 取締役配電部長
〃	本山 和幸	西日本高速道路(株) 九州支社沖縄高速道路事務所 副所長
〃	中島 啓	(独) 都市再生機構 沖縄都市再生事務所 所長

○ 幹事会

役職等	氏名	所 属
幹 事 長	下里 哲弘	琉球大学 工学部 准教授
副幹事長	須田 裕哉	琉球大学 工学部 助教
〃	安仁屋 勉	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 技術管理課長
〃	小橋川 透	沖縄県 土木建築部 技術・建設業課長
幹 事	神谷 大介	琉球大学 工学部 准教授
〃	田井 政行	琉球大学 工学部 助教
〃	安元 純	琉球大学 農学部 助教
〃	西村 昌浩	防衛省 沖縄防衛局 調達部 土木課長
〃	喜屋武 忠	(一社) 沖縄県建設業協会 理事
〃	神村 美州	(一社) 沖縄県測量建設コンサルタンツ協会 専務理事
〃	友寄 孝	(一社) 沖縄しまたて協会 技術環境研究所 技術環境部長
〃	宮里 宏和	(一財) 沖縄県建設技術センター 試験研究部長
〃	池原 興栄	(一財) 港湾空港総合技術センター 副支部長
〃	佐々木 秀尚	沖縄県港湾空港建設協会 副会長
〃	伊集 朝徳	(一社) 日本道路建設業協会 事務局長
〃	川満 秀昭	沖縄電力(株) 送配電本部 配電部 配電センター長
〃	轟 彰雄	西日本高速道路(株) 九州支社沖縄高速道路事務所 統括課長
〃	伊藤 浩二	(独) 都市再生機構 沖縄都市再生事務所 主幹
〃	石垣 伸	(一社) 日本建設業連合会九州支部沖縄支所 支所長

3. その他(報告)

2018年1月16日(火)

土木学会西部支部沖縄会 寄附金受け入れ方法に関する覚書

1. 寄附金の受け入れてとして、土木学会本部へ「土木学会公益増進資金」(指定型資金)
(土木学会公益増進事業運営委員会規則, 様式-3)として、寄附者様が使途を指定し申請
する。

例) 土木学会西部支部沖縄会の人材育成に係る事業など

⇒寄附金控除受領証明書は入金を確認してから土木学会本部が寄附者様へ送る。

(ご送金後、証明書が欲しいことを本部へ申請する必要あり)

2. その寄附金は土木学会本部にて公益増進資金として管理される。ただし、そのうち20%
または10%は一般型資金として計上される(下記, その他参照)

3. 使用者(例えば沖縄会人材確保・育成WG)は、「土木学会公益増進資金」助成申請書(土
木学会公益増進事業運営委員会規則, 様式-4)を作成し、土木学会西部支部を通して提出
する。(西部支部と事前調整が必要)

※西部支部を通すのは、木学会公益増進事業運営委員会規則第13条第2項にて、申請者は、
委員会委員長又は支部長とする。と定められているためである。

※申請理由には、予算使用計画なども含める。

4. 使用者の申請が、本部に認められた場合、申請額(寄附金の80%または90%)が本部
から沖縄会へ配分される(沖縄しまたて協会管理)。

5. 使用者は、報告義務として、年度末には活動・報告(土木学会公益増進事業運営委員会
規則, 様式-5)を支部へ提出する。

その他:

土木学会公益事業に係る資金に関する規則 第5条3項に、寄附金として、指定型資金
へ申請した額の20%から10%を一般型資金とすると定められている。

土木学会西部支部 沖縄会 規約

(名称)

第1条 本会は、土木学会西部支部沖縄会（以下「本会」という）といい、土木学会西部支部ブランチ(分会) 制度細則（平成23年7月25日制定）に基づくものである。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の土木技術の向上・研鑽・親睦交流、国際的視野に立った情報発信を行い、沖縄の自然・社会条件を踏まえた土木工学の発展と沖縄の振興および自立的発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う

1. 土木工学に関する研究発表会、講演会、見学会、視察等の実施
2. 土木学会活動の沖縄地域への普及・広報活動
3. 会員間の親睦に寄与する行事
4. 土木工学に関する図書、印刷物の刊行
5. 土木工学に関する奨励、援助
6. 土木工学教育及び土木技術者教育への支援
7. 土木関係資料の収集・保管・公開
8. その他本会の目標達成のために必要な事業

(会員)

第4条 本会の会員は次の資格を有するもので構成する。

1. 正規会員
 - A 沖縄県内に在住するか又、県内の土木工学にたずさわる土木学会正会員・フェロー会員・名誉会員
 - B 沖縄県内に在住する土木学会学生会員
2. 特別会員
 - A 沖縄県内に在住するか又は、沖縄県内の土木工学にたずさわりの、本会の目的事業に賛同する個人
 - B 沖縄県内に在所するか又は、沖縄県内の土木工学にたずさわりの、本会の目的事業に賛同する団体

特別会員は、入会后10年迄を原則とする。

(入会及び会費)

第5条 特別会員に係る入会及び会費は次のとおりとする。

1. 特別会員になろうとするものは、土木学会西部支部沖縄会細則(以下「細則」という)で定めるところにより入会手続きを行い、幹事会の承認を得なければならない。
2. 特別会員は、細則(初年度は総会)において定める会費を納入しなければならない。
3. 既納の会費は返還しない。

(退会)

第6条 特別会員で退会しようとする者は、所定の義務を完了した後、退会届を提出しなければならない。また、特別会員の団体構成員は特別会員の退会と同時に退会したと見なす。

(除名)

第7条 会員が会(土木学会及び沖縄会)の名誉を傷つけまたは会の目的に反する行為をするに至ったときは、総会の議決によって当該会員を除名することができる。

特別会員の団体構成員は特別会員の除名と同時に除名とする。

(会員資格の喪失)

第8条 前2条の場合のほか、会員は、次に該当するに至ったときは、その資格を喪失することができる。また、特別会員の団体構成員は特別会員の資格喪失と同時に資格喪失とする。

1. 第5条の支払義務を1年以上履行しなかったとき。

(役員)

第9条 本会に次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 2名
3. 会計監事 2名
4. 運営委員 若干名
5. 幹事長 1名
6. 副幹事長 3名
7. 幹事 若干名

- 2) 幹事長、副幹事長は運営委員と兼務することができるものとする。

(役員を選任)

第10条 役員を選任方法は、次のとおりとする。

1. 会長および会計監事は本会に所属する会員の中から幹事会及び運営委員会の審議を経て総会で選任する。
2. 副会長は会長が委嘱する。
3. 運営委員、幹事長及び副幹事長並びに幹事は会長が委嘱する。

(役員職務)

第11条 役員職務は次のとおりとする。

1. 会長は、会を代表し、総会及び運営委員会の議長となる。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。
3. 会計監事は、本会の会計監査を行い、総会に報告する。
4. 運営委員は、本会に関する重要な事項について、会長の諮問に応ずる。
5. 幹事長は、会長及び副会長を補佐し、会務を処理する。
6. 副幹事長は、幹事長を補佐し、必要に応じて幹事長の職務を代行する。
7. 幹事は、幹事長及び副幹事長とともに幹事会を構成し、幹事長及び副幹事長を補佐して会務を執行する。

(役員任期)

第12条 役員任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

- 2) 任期中の異動等により任務の遂行が不可能となった場合、原則として前任者の所属する機関からの推薦を受けるものとする。この場合、任期は前任者の残存期間とする。

(総会)

- 第13条 会長は、毎事業年度終了後、総会を開催し、また、必要に応じて臨時総会を開催する。
- 2) 総会の議長は、会長がこれに当たる。
 - 3) 総会は、次の事項について決議する。
 1. 沖縄会の事業報告及び収支決算の報告
 2. 沖縄会の事業計画及び予算
 3. 沖縄会の規約等の制定及び改正
 4. 会長、会計監事の選任
 5. その他、沖縄会運営に関する重要事項
 - 4) 総会は、沖縄会に所属する正規会員及び特別会員Bの1/20以上の出席をもって成立し、出席者の過半数の賛成で決議する。ただし、委任状を提出した者については、出席者とみなす。

(運営委員会)

- 第14条 運営委員会は、会長、副会長、運営委員および会計監事をもって構成し、議長は会長がこれに当たる。
- 2) 運営委員会は、原則として年1回以上開催することとし、会長が招集する。
 - 3) 運営委員会は、次の事項について決議する。
 1. 沖縄会の事業報告(案)、収支決算(案)
 2. 沖縄会の事業計画(案)及び予算(案)
 3. 会長候補者及び会計監事候補者の選出
 4. その他、沖縄会総会の権限に属するものを除く、沖縄会運営に関する基本的事項
 - 4) 運営委員会は、運営委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数の賛成で決議する。ただし、委任状を提出した者については、出席者とみなす。

(幹事会)

- 第15条 幹事会は、幹事長、副幹事長及びすべての幹事をもって構成し、議長は幹事長がこれに当たる。
- 2) 幹事会は、原則として年2回以上開催するものとし、幹事長が招集する。
 - 3) 幹事会は、総会で承認された事業計画及び予算に基づき、会務を執行するとともに、年度途中で発生した会務運営に関する事項の具体策を検討し、実施する。
 - 4) 幹事会の運営については、幹事会が別途運営細則を定める。
 - 5) 幹事会は、幹事の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数の賛成で決議する。ただし、委任状を提出した者については、出席者とみなす。

(委員会)

- 第16条 会長は、第3条の事業を行うために、次の委員会を設けるものとする。また、必要があるときは、原則として運営委員会の審議を経て、新たな委員会を設けることができる。
1. 沖縄の土木技術を世界に発信する会
 2. 技術委員会
 - 2) 各委員会は、会長が委嘱した委員長および委員によって構成する。
 - 3) 各委員会の運営細則は、各委員会が別途定めるものとする。

(事業報告、事業計画、収支決算及び予算)

- 第17条 本会の事業報告、事業計画、収支決算及び予算は毎年度の当初において幹事会で作成し

運営委員会の承認を得て総会に諮るとともに、土木学会西部支部幹事会に報告するものとする。また、西部支部からの支援を受けようとする事業については、西部支部幹事会の承認を諮るものとする。

(経費等)

第 18 条 本会の経費は特別会費を徴しこれにあてるほか、西部支部からの交付金、事業に伴う収入および協力金による。

(会計年度)

第 19 条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(事務所)

第 20 条 本会の事務所は浦添市勢理客 4 丁目 18 番 1 号、(一社)沖縄しまたて協会内に置く。

(規約の変更)

第 21 条 この規約は総会の決議を得なければ変更することが出来ない。ただし、軽微なものはこの限りでない。

(その他)

第 22 条 本会は土木学会定款、規則及び西部支部規定を遵守し活動を行うものである。

- 付則)
1. この規約は平成 23 年 9 月 20 日より施行する。
 2. 初年度は会長及び会計監事を総会で選任する。
 3. 初年度は特別会員 A、特別会員 B を総会で承認する
 4. この規約は平成 24 年 7 月 4 日より施行する。
 5. 平成 29 年 7 月 18 日一部改定

沖縄会特別会員B名簿(団体会員)

番号	会社名	代表者	会員数	備考
1	(一財)港湾空港建設総合技術センター沖縄支部	支部長 小早川 弘	2	
2	(独)都市再生機構 沖縄都市再生事務所	所長 中島 啓	2	
3	西日本高速道路(株)九州支社 沖縄高速道路事務所	副所長 上原 盛久	2	
4	(一社)日本道路建設業協会 沖縄支部	支部長 与那嶺 恵信	2	
5	日本ファブテック 株式会社 沖縄営業所	沖縄営業所長 志喜屋 一陽	2	
6	(株)ピーエス三菱 沖縄営業所	沖縄営業所長 赤嶺 文繁	2	
7	(株)大本組 沖縄営業所	所長 鍋島 委己	3	
8	前田建設工業(株)九州支店 沖縄営業所	所長 若林 昭彦	1	
9	佐藤工業(株) 沖縄営業所	営業所長 梶原 仁	1	
10	(株)安部日鋼工業 沖縄営業所	営業所長 国吉 正哉	1	
11	極東興和(株) 沖縄営業所	所長 比嘉 盛夫	1	
12	東急建設(株) 沖縄営業所	所長 小園 幸広	1	
13	(株)鴻池組 沖縄営業所	所長 鮫島 秀喜	2	
14	東亜建設工業(株)	所長 町田 喜代寿	2	
15	(株)小波津組	代表取締役社長 小波津 英正	18	
16	(一財)沖縄県建設技術センター	理事長 宮城 理	3	
17	川田工業(株) 沖縄営業所	所長 比嘉 智	1	
18	(株)大林組 九州支店 沖縄営業所	所長 井出 直喜	2	
19	東洋建設(株) 沖縄営業所	所長 堀井 洋佑	2	
20	琉球開発(株)	社長 宮城 久雄	2	
21	鹿島道路(株) 沖縄営業所	所長 茂島 寿浩	1	
22	西松建設(株) 沖縄営業所	所長 吉田 卓生	1	
23	(株)大米建設	社長 下地 米蔵	2	
24	(株)高橋土建	代表取締役社長 玉城 俊夫	2	
25	(株)大城組	代表取締役社長 花城 一郎	2	
26	若築建設(株)	所長 諸見川 和也	1	
27	仲程土建(株)	代表取締役社長 仲程 俊郎	1	
28	ドービー建設工業(株) 沖縄営業所	沖縄営業所長 金城 徹也	2	
29	コーアツ工業(株)	沖縄営業所長 友利 和隆	1	
30	飛鳥建設(株) 沖縄営業所	沖縄営業所長 長谷部 聡	1	
31	(一社)沖縄県建設業協会	会長 下地米蔵	2	
32	(一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会	会長 池村 弘	2	
33	(株)大寛組	代表取締役 大濱 均	1	
34	(一社)沖縄しまたて協会	理事長 白波瀬 正道	4	
35	沖縄電力(株)	取締役配電部長 仲宗根 斉	2	
36	沖縄県港湾空港建設協会	会長 座波 博史	2	
37	(株)富士ピーエス沖縄営業所	所長 大城 敦	1	
38	(株)TTES	代表取締役 菅沼 久忠	1	
39	(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 九州支部	九州支部長 長尾 徳博	2	
40	川田建設(株) 沖縄営業所	所長 渡久地 政胤	1	
41	五洋建設(株) 九州支店 沖縄営業所	所長 佐々木 秀尚	1	
42	宮地エンジニアリング(株) 沖縄営業所	営業所長 村島 康文	1	
43	(株)中央建設コンサルタンツ	代表取締役 砂川 秀樹	2	
44	(株)沖縄環境保全研究所	代表取締役 平良 辰二	2	
45	株式会社 沖 技	代表取締役社長 照屋 義明	14	
46	株式会社 ナカボーテック 沖縄営業所	所長 飛鳥 斉	2	
47	オリエンタル白石株式会社 沖縄営業支店	白石 俊夫	2	
48	牧港建設(株)	代表取締役 平良 平長	1	
49	南洋土建(株)	代表取締役社長 比嘉 森廣	14	
50	株式会社ウイング総合設計	代表取締役 宮城 良博	12	
51	株式会社 技建	宮野 伸介	12	
52	(株)南城技術開発	代表取締役 城間敏夫(土木学会正会)	14	
53	金秀沖縄ピーシー(株)	代表取締役社長 宮 憲男	4	
54	永技研株式会社	代表取締役社長 前里 幸三	5	
55	(株)横河ブリッジ那覇営業所	所長 真喜志 一寛	1	
56	NPO法人グリーンアース	代表理事 鈴木 浩一	4	
57	株式会社 ブラズワイヤー	代表取締役社長 宮崎 文宏	2	
58	株式会社安藤・間 沖縄営業所	営業所長 片岡 善行	3	
59	(株)仲本工業	代表取締役 仲本 豊	2	
60	琉球セメント株式会社	代表取締役社長 西村 聡	2	
61	株式会社沖縄建設新聞	代表取締役社長 古謝 昇	1	
62	株式会社 オカバメンテ	代表取締役 岡部 成行	1	
63	西日本高速道路 総合サービス沖縄株式会社	代表取締役社長 藤本 秀勝	2	
64	鉄建建設株式会社 九州支店 沖縄営業所	沖縄営業所長 大園 光義	2	
		小計	190	
	防衛省 沖縄防衛局	調達部長 井上 主勇	2	行政委員
	沖縄県 土木建築部	沖縄県 土木建築部長 上原 国定	5	行政委員
	沖縄総合事務局	沖縄総合事務局 次長 菊地 春海	5	行政委員
		小計	12	
		合計	202	

H29年度 土木学会西部支部 沖縄会 役員名簿 (H30/6/12)

○ 運営委員会

役職等	氏名	所 属
会 長	上原 国定	沖縄県 土木建築部 部長
副 会 長	矢吹 哲哉	琉球大学名誉教授
副 会 長	菊地 春海	内閣府 沖縄総合事務局 次長
会計監事	松島 良成	沖縄県 土木建築部 土木整備統括監
会計監事	下地 米蔵	(一社) 沖縄県建設業協会 会長
運営委員	有住 康則	琉球大学 工学部 教授
〃	中野 拓治	琉球大学 農学部 教授
〃	中島 靖	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 部長
〃	望月 拓郎	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官
〃	井上 主勇	防衛省 沖縄防衛局 調達部長
〃	池村 弘	(一社) 沖縄県測量建設コンサルタンツ協会 会長
〃	石垣 弘規	(一社) 沖縄しまたて協会 専務理事
〃	宮城 理	(一財) 沖縄県建設技術センター 理事長
〃	小早川 弘	(一財) 港湾空港総合技術センター 沖縄支部長
〃	座波 博史	沖縄県港湾空港建設協会 会長
〃	与那嶺 恵伸	(一社) 日本道路建設業協会 沖縄支部長
〃	仲宗根 斉	沖縄電力(株) 送配電本部 取締役配電部長
〃	上原 盛久	西日本高速道路(株) 九州支社沖縄高速道路事務所 副所長
〃	中島 啓	(独) 都市再生機構 沖縄都市再生事務所 所長

○ 幹事会

役職等	氏名	所 属
幹 事 長	小橋川 透	沖縄県 土木建築部 技術・建設業課長
副幹事長	富山 潤	琉球大学 工学部 准教授
〃	安仁屋 勉	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 技術管理課長
〃	大湾 朝亮	沖縄県 土木建築部 技術・建設業課 技術管理班長
幹 事	下里 哲弘	琉球大学 工学部 准教授
〃	神谷 大介	琉球大学 工学部 准教授
〃	須田 裕哉	琉球大学 工学部 助教
〃	田井 政行	琉球大学 工学部 助教
〃	安元 純	琉球大学 農学部 助教
〃	西村 昌浩	防衛省 沖縄防衛局 調達部 土木課長
〃	喜屋武 忠	(一社) 沖縄県建設業協会 理事
〃	神村 美州	(一社) 沖縄県測量建設コンサルタンツ協会 専務理事
〃	友寄 孝	(一社) 沖縄しまたて協会 技術環境研究所 技術環境部長
〃	宮里 宏和	(一財) 沖縄県建設技術センター 試験研究部長
〃	池原 興栄	(一財) 港湾空港総合技術センター 副支部長
〃	佐々木 秀尚	沖縄県港湾空港建設協会 副会長
〃	伊集 朝徳	(一社) 日本道路建設業協会 事務局長
〃	川満 秀昭	沖縄電力(株) 送配電本部 配電部 配電センター長
〃	轟 彰雄	西日本高速道路(株) 九州支社沖縄高速道路事務所 統括課長
〃	伊藤 浩二	(独) 都市再生機構 沖縄都市再生事務所 主幹
〃	石垣 伸	(一社) 日本建設業連合会九州支部沖縄支所 支所長

平成 29 年度 土木学会西部支部沖縄会 第 3 回幹事会 議事録 (案)

日時：2018 年 3 月 5 日(月) 13:00～14:10

場所：沖縄総合事務局 那覇第 2 地方合同庁舎 2 号館 2 階 災害対策室 B・C

出席：小橋川幹事長，高良副幹事長，砂川副幹事長，富山副幹事長，田井幹事，伊集幹事，
石垣新幹事（竹田幹事後任），上運天幹事，神村幹事，喜屋武幹事，宮里幹事，友寄幹事

議題

0. 幹事会の成立確認：

規約，第 15 条 5) 項

幹事会は、幹事の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数の賛成で決議する。ただし、委任状を提出した者については、出席者とみなす。

・幹事 21 名中 11 名出席また委任状 4 名提出：会の成立要件を満足する。

1. 新規入会について（鉄建建設）：資料 1

（会員）

規約 第 4 条 本会の会員は次の資格を有するもので構成する。

1. 正規会員

A 沖縄県内に在住するか又、県内の土木工学にたずさわる土木学会正会員 フェロー会員・名誉会員

B 沖縄県内に在住する土木学会学生会員

2. 特別会員

A 沖縄県内に在住するか又は、沖縄県内の土木工学にたずさわりの、本会の目的事業に賛同する個人

B 沖縄県内に在所するか又は、沖縄県内の土木工学にたずさわりの、本会の目的事業に賛同する団体
特別会員は、入会后 10 年迄を原則とする。

（入会及び会費）

規約 第 5 条 特別会員に係る入会及び会費は次のとおりとする。

1. 特別会員になろうとするものは、土木学会西部支部沖縄会細則（以下「細則」という）で定めるところにより入会手続きを行い、幹事会の承認を得なければならない。

2. 特別会員は、細則（初年度は総会）において定める会費を納入しなければならない。

3. 既納の会費は返還しない。

・鉄建建設株式会社 九州支店 沖縄営業所の特別会員 B への入会が幹事会にて認められた。

2. 寄附金の取り扱いについて(報告)：資料 2～6

・土木学会経理課と相談の上、寄附金受け入れ方を決定した。寄付者は、土木学会本部や「土木学会公益増進資金」（指定型資金）に“用途を限定”して申請する。使用者は、土木学会本部へ「土木学会公益増進資金」助成申請書を作成し、土木学会西部支部を通して提出する。

3. 次年度講演会について(提案)：資料7 土日開催で案を作成する。
 - ・資料7：講師(案)，一般社団法人ツタワールドボク 代表理事・会長 片山英資氏の講演会講師が認められた。内容，時期的なものについては，講師と相談の上決定する。
 - ・講演内容が一般向けの場合、開催曜日は，一般聴講も視野に入れ，土日開催も検討する。また，会員を対象としたCPD登録も行う。
4. 次年度予算について：資料8
 - ・次年度予算(案)の説明がなされ，幹事会にて承認を得た。
 - ・寄附金の取り扱いについては，寄付金額および使用申請額に応じて，実績ベースで予算に盛り込む。

5. インフラメンテナンス国民会議について

・沖縄会と連携(協力)して行うことを了承された。幹事会から総会に本件を提案する。

その他)

- ・企画委員に幹事会のメンバーが入ってほしい。調整済み。
- ・土木に限らず，建築(ビルメンテナンス)なども視野に入れている。
- ・活動については，講習会を含めて，5，6回程度(最大)
- ・事務的負担，予算面(当面ゼロでスタート)。
- ・沖縄会からの負担はない。
- ・沖縄総合事務局で，資料の印刷，講演会会場など，事務的なサポートを行う。
- ・入会するとメルマガが電子メール配信されるため，全国の情報を得ることができる。
- ・建設業協会：協会としては参加でないという結論になっているが，沖縄会幹事としては協力する。また，会員には入会の周知している。
- ・コンサルタント協会：参加する。会員には入会の周知をしている。

Etc.

6. その他

- ・特になし。

報告

1. 行事報告(別紙1)

次年度の行事の予定をお願いいたします。

2. 幹事の交代：(一社)日本建設業連合会九州支部沖縄支所 竹田幹事 → 石垣幹事

3. 平成29年度の幹事会は，最後となるため，来年度の三役体制については，次年度最初の幹事会にて審議する。